

# 石木ダムの必要性は 最高裁判所の決定によって 3つの司法判断が確定しています！

## 司法判断① 水源確保が必要不可欠です

佐世保市は日量約4万トンの水源が不足しており、水源確保は、市民生活や社会活動を支える上で、必要不可欠なものであると判断されました。また、渇水によって日常生活や経済活動などに与える被害は甚大で、石木ダム建設によって得られる効果は大きいことが立証されました。

## 司法判断② 石木ダムが唯一の方法です

水源確保の手段は、石木ダム以外に残されていないことが認められました。海水淡水化や地下水開発、別の場所でのダム建設に実現性がないことが、改めて立証されました。

## 司法判断③ 緊急に進める必要があります

渇水被害を繰り返さないことはもちろん、既存の老朽ダム対策の側面からも、緊急に水源確保が必要であると判断されました。老朽ダムを改修するためには、数年間運用を休止することが必要であり、水源不足の現状では困難です。

### 石木ダム事業認定取消請求訴訟

石木ダム建設に反対される方々が、事業認定の取消しを求めて国(国土交通省九州地方整備局長)を訴えていた訴訟です。令和2年10月8日、最高裁判所は上告を棄却し、上告審として受理しない旨を決定しました。これにより、石木ダム事業の「公益上の必要性」を認めた福岡高等裁判所による控訴審判決(令和元年11月29日)が確定しました。



石木ダムは佐世保市の街づくりの基盤として極めて重要です。二度と渇水を繰り返さないために建設促進にご理解とご協力をお願いします。  
佐世保市長 朝長則男

問い合わせ 佐世保市水道局水源対策・企画課 ☎ 24-1151

水道局  
だより  
特別号

# 水を大切にする日 2022 ～石木ダム建設促進大会～

令和4年9月11日、本市と石木ダム建設促進佐世保市民の会は「水を大切にする日 2022 ～石木ダム建設促進大会～」を体育文化館で開催しました。同大会で採択された大会宣言や石木ダムの必要性に関する最高裁判所の司法判断などについてお知らせします。

写真は山の田ダムの取水バルブです。取水の生命線とも言えるバルブですが、建築は明治41年と古く、老朽化が進み、対策が必要となっています。

# 水を大切にする日 2022 ～石木ダム建設促進大会～

「水を大切にする日 2022 ～石木ダム建設促進大会～」には、市民の皆さんなど約 400 人が参加し、大石賢吾長崎県知事や朝長則男市長などのあいさつをはじめ、中島勝利水道局長による講演などを行い、右記の大会宣言を採択しました。



あいさつを述べる大石県知事(左)と朝長市長(右)

大会当日に映写した動画等は下の画像からご覧ください



水資源に乏しい街に住まう我々は、常日頃から出来得る限りの節水に努め、水不足の危機の際には、更なる節水のため、家庭においても、仕事においても、あらゆる面で協力を惜しまず、まさに「市民ダム」を築き上げてきました。

しかし、このような自助努力にもかかわらず、幾度も耐えがたい渇水に晒され続けてまいりました。

このような状況の唯一の解決策とされる「石木ダム」についても、その建設促進の一助となるべく、声を上げ、足を動かし、全力で協力してまいりました。

しかしながら、40 有余年待ち続けた結果、抜本的解決が図られないまま今日を迎えていることは、断腸の思いであります。

## 大会宣言

我々は、水不足の制約なく地域社会が発展し、子や孫が水に悩まされない安心な日常を送れることを切に願っています。

そのためには、抜本的解決策である石木ダムの早期建設を望んでやみません。

もちろん、ダム建設により移転を強いられる方々の心情を考えれば、感謝の念を永遠に忘れることはありません。

そのうえで、事業認定より 9 年が経過した現在、改めて、早期に石木ダムが建設されることを切実な願いとして、これまでの活動方針である「石木ダム建設は市民の願い」を本日結集された市民の皆様とともに確認し、ここに大会宣言といたします。

令和 4 年 9 月 11 日

佐世保市・石木ダム建設促進佐世保市民の会

## 水を大切にする日 2022～石木ダム建設促進大会～

主催：佐世保市・佐世保市水道局・石木ダム建設促進佐世保市民の会

